読んだ読んだ「盆土産」読み取りの足跡

六組　一場面

少年は、エビフライをえんびフライと言っていて、いろんな人に自慢したいため、しっかりいいたくて、あと、お父さんに早く会いたいけれど、エビフライを早く食べたいと想いながら魚釣りをしている。

角野心水

少年は、父親がお土産として持って帰る「エビフライ」を、「えんびフライ」と言って、早く「エビフライ」と言えるようになって自慢をしたいという想いがあり、また、父親の好きな生そばのだしのために魚釣りをしている。

田中　裕瑛

少年は、父親が久しく帰ってくるのを待ちわびつつ、エビフライという聞いたこともないものを気にしつつ、でも、早くどんなものかと期待しながら魚釣りをしている。

武井日佳理

少年は、エビフライやそれを持って帰ってくる父親のことが、とても気になっている。少年は、友達などに「エビフライ」という言葉を自慢したいのか、何度も言い方を練習している。また、タイムリミットがあるために、少し焦りながら、魚釣りをしている。

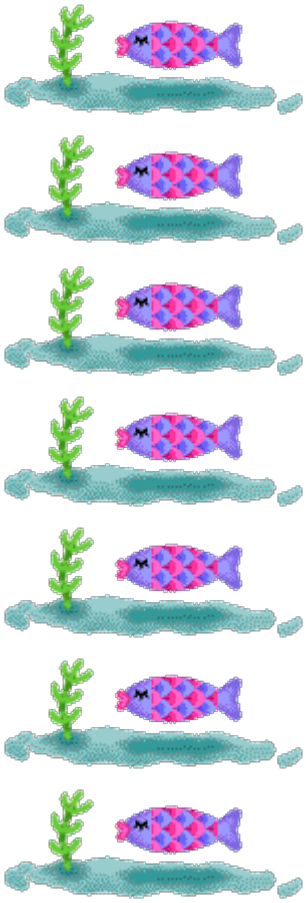
加藤玖瑠実

少年は、急に帰ってくると聞いた父のために、川の中で釣りをしているが、河鹿などにも優しさがある。エビフライと言えるようになりたいのは、父にほめてもらいたいし、自慢したいからなど、いろいろあるが、一番父親への気持ちが強く、父親の喜んでくれる顔を見たいから、川で釣りをしている。

近藤　葵

少年は、突然父が帰ってくる知らせを聞き、もっと早く知らせてほしかったと思ったが、それでも父が帰ってくるのはすごくうれしく、待ち遠しい気持ちになった。また、待ち遠しいのは父の帰りだけではない。何度もつぶやくくらい気になるエビフライのことも待ち遠しかった。そんな二つのことを楽しみにしながら、魚釣りをしている。

杉山純里

少年は、父親の好きな生そばを作るために釣りをしている。しかし、釣りをしている最中でも、盆土産のエビフライが気になって、ついつぶやいてしまう。そして、「エビフライ」がうまく言えない少年は、父親にほめられたいから練習しながら魚釣りをしている。

日比野沙紀